

平成27年度実施事業調査シート

■ 基本事項(事業の位置づけ)

No. 8	項目名	観光振興費	主要な施策の 成果 ページ	71	担当 部署	環境経済部 商工観光労政課	
予算科目	会計	1 一般会計	総合計画 体系	分野	商工観光		
	款	7 商工費		基本方針	観光の振興		
	項	1 商工費		施策	観光資源の活用と草津ブランドの育成 出会いとふれあいの魅力の発信		
	目	3 観光費		当初予算における区分	新規施策・ 拡大施策 ・重点施策・その他		
事務事業	302	観光振興費	↑ 該当するものを○で囲んでください				

■ 事業概要(実施内容)

事業の背景	(事業開始の背景は？実施に至った経緯は？) 本市の観光施策は、草津宿本陣や水生植物公園みずの森などが開業した平成8年の「観光元年」以降、「びわ湖草津」と「宿場町草津」を中心に幅広い事業を展開しており、平成26年には約200万人の観光入込客数を記録した。昨今の観光ニーズは、従来の物見遊山の観光から、訪れる地域の自然や生活文化、人とのふれあいを体験できる「体験型・交流型観光」へと変化しており、本市の特徴ある観光資源を積極的に活かした「着地型観光」の発掘・整備に取り組む必要がある。
事業の対象	(事業の対象、範囲となる人や物は何なのか？) 市民ならびに本市を訪れる観光客
事業の目的	(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか？) 観光物産協会などの関係団体と連携し、烏丸半島をはじめとした「びわ湖草津」や、草津宿本陣を中心とした「宿場町草津」など、本市の特徴のある観光資源を活用した各種事業の実施や情報発信、着地型観光の推進等を実施することで、より多くの観光客の誘致を図る。
事業の内容 (取り組み)	(どういった仕事の内容を、どのような手法・やり方で実施したのか？) 観光物産協会や宿場まつり実行委員会等を支援し、「草津」の魅力創出やPRを行った。また、近隣市との協議会やびわこビジターズビューローと連携し広域観光の推進を図った。 新規事業として、烏丸半島において行われている「ヨシ松明まつり」で、市内唯一の花火大会を催すことを支援する「烏丸半島魅力創出事業」や、JR草津駅前の観光案内所を観光客がより気軽に立ち寄ることができるよう「観光案内所改修事業」を実施した。

■ 予算・決算状況

	当初予算の状況					決算の状況・実績				
内訳・詳細	○観光物産協会活動費補助金 8,599千円 ・烏丸半島魅力創出事業 1,000千円 ○宿場まつり開催費補助金 13,500千円 ○観光振興事務費 5,909千円 ○観光宣伝費 10,037千円 ・観光案内所改修事業 5,703千円 ○広域観光費 852千円					○観光物産協会活動費補助金 7,146千円 ・烏丸半島魅力創出事業 1,000千円 ○宿場まつり開催費補助金 13,500千円 ○観光振興事務費 5,577千円 ○観光宣伝費 12,010千円 ・観光案内所改修事業 5,702千円 ・外国人観光客誘致事業 2,526千円(10月補正) ○広域観光費 842千円				
事業費(千円)	合計	国県	市債	その他	一般財源	合計	国県	市債	その他	一般財源
	予算・決算額	38,897	2,332		36,565	39,075	4,951			34,124
	前年度比	117%				119%				
◆「当初予算額」と「決算額」の増減理由(事業の進捗状況等)	「湖上交通を活用した新たな観光資源開発事業」(10月補正)の実施による増額 草津市外国人観光客魅力度調査業務 1,799,280円 草津市多言語観光表示板設置工事 726,840円									
◆平成26年度事業費(千円)	合計	国県	市債	その他	一般財源	合計	国県	市債	その他	一般財源
	33,244				33,244	32,809				32,809

■ 事業所管部署による評価

	評価	項目	評価の理由・評価に関する説明
必要性	3	市民ニーズが高い	観光客の増加により、地域の活性化に繋げることができる。
	2	市の他の政策よりも優先的に実施すべきである	
	2	対象および内容が類似する事業がない	
妥当性	1	法令により実施することが義務付けられている	市内全域の総合的な活性化を目指した観光振興事業であるため、市で支援することが望ましい。
	1	法令に定められた市の責務を具現化して実施する事業である	
	4	上位計画に明確に事業が位置づけられている	
	1	国・県・民間の類似サービスと重複していない	
	1	市民の基本的生活の維持・確保に必要な事業、または内部事務である	
効率性	3	他の手法に比べて効率のよい事業手法である	民間との役割分担により、効率化を進めている。今後も更なる民間活力の活用により、コスト削減や効率性の向上に向けた取組みを進める必要がある。
	2	コスト削減の余地はない	
	3	受益者一人当たりのコストは適正である	
	3	受益者負担や補助の割合に問題はない	
継続性	3	事業を継続することで、さらなる効果が見込まれる	年々草津を訪れる観光客および宿泊客は増加傾向にあり、最近では外国人観光客の増加が見受けられることから、今後も受け入れ基盤の整備に注力していく必要がある。
	3	所期の目的を達成しておらず、引き続き実施する必要がある	
	4	社会状況の変化に対応した事業内容である	
成果	3	当該年度の事業目的を達成できた	観光客が増加していることから、継続的に実施していくことにより、今後益々の効果が期待できる。
	3	受益者の評価が得られている	
	3	費用対効果が大きい	

↑ 次の4段階により該当する数値を記入してください。

(4.よく当てはまる。3.およそ当てはまる。2.あまり当てはまらない。1.ほとんど当てはまらない。)

■ 事業実施効果および課題、将来展望

事業実施効果	<p>各種事業の継続的な実施により、本市の観光入込客数は着実に増加していることに加えて、草津市観光物産協会のホームページのアクセス件数も向上しており、本市に関心を示している人が増加していると思われる。</p> <p>(平成26年度・・・観光入込客数 2,066,000人、HPアクセス件数 451,939件) (平成27年度・・・観光入込客数 2,189,600人、HPアクセス件数 559,532件)</p>					
事業に対する市民の意見、反応	<p>観光入込客数は増加しているものの、市民意識調査の結果では「観光の振興に満足している市民の割合」は減少しており、草津の観光に関する認知度向上に向けた取組みを積極的に進めていく必要がある。</p>					
事業の今後の課題、将来展望	<p>全国的に定住人口が減少傾向にある中、知名度の高い観光地ではない本市においても、様々な観光施策を実施し、観光客を誘致することにより、交流人口の拡大と地域の活性化を図る必要がある。</p> <p>また、市内での宿泊客の中には、主に京都への観光を目的とした外国人宿泊客の増加が目立っており、その宿泊客を草津に呼び込んでいくために、外国人観光客の受け入れ態勢の強化に向けて、基盤整備に力を入れていく必要があると考える。</p>					
※平成28年度の予算措置	予算額(千円)	合計	国県	市債	その他	一般財源
		33,963				33,963
	27年度比	87%				
	積算根拠	<p>○観光物産協会観光振興活動費補助金 12,228千円 ○宿場まつり開催費補助金 13,500千円 ○観光振興事務費 3,280千円 ○観光宣伝費 3,833千円 ○広域観光費 1,122千円</p>				

※ 当該事業が平成27年度に終了した場合は、当該事業に代わって措置した予算や関連予算を記載してください。